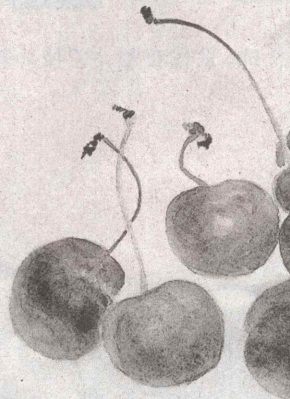


朝

歌壇



〈山形からの便り〉

つは裏口らしい。日差しの強い時は入り口をダンゴムシの不透明な殻で覆っている。雨の日は鳩の羽根を引きずって、入り口に二本差していた。雨を凌ぐのにはもってこいの材料に脱帽である。書けぬ日のくるぐろと行く蟻の列

と、
る。
のだ
さ
もい
れぞ

高野公彦選

スマホより車窓を選ぶ江ノ電の客は豊かな時間を生きる

(つくば市) 石上徳千代

玉の緒のついに絶えしや玉緒さん「皆さんお

おきに、はなのお先に」と(大和郡山市) 四方 護

生きたため粥を分け合うガザの民マンジャロ

を打つ日本の若者 (観音寺市) 篠原 俊則

休刊日の静かな作業場四時集合仲間と観戦オ

ランダ戦を (甲州市) 麻生 孝

残り湯をバケツに汲みて草花に毎朝与ふこれ

も筋トレ (春日井市) 神戸 豊子

閉ぢられし校舎生まれかつばくらめ運動場に

触るるごと飛ぶ (下関市) 内田 恒生

二歳の言ふ「ばんがる」とは「がんばる」の

こと ばんがればんがれ大きくなあれ

幼子が二本の枝を拾ったらジャングルジムも

楽器に変わる (愛知県) 山田 真人

百六歳老いのすべてを見せて逝きし母を敬い

時に哀れむ (佐世保市) 近藤 福代

父山口母富山との子に生まれ我は次第に北海

道弁 (札幌市) 山田 広一

道弁

【評】1 首目、江ノ電の車窓の景を楽しむ心豊かな客。2 首目、中村玉緒さんへの追悼歌。関西弁が効いている。3 首目、マンジャロは痩せる効果のある薬。4 首目、一人ではなく仕事仲間と一緒に観戦してサッカーのオランダ戦を楽しむ作者。

永田和宏選

主塔完成サグラダ・ファミリア未完成をどこ

かで望む人間の不思議 (横浜市) 森 秀人

夕顔の音と風とのただなかに岩鷲山の残雪

望む (盛岡市) 榎本 拓

いやなことだけを忘れる認知症それならなっ

てもいいと思う (堺市) 芝田 義勝

告白は本来女子がするものよ「好き」という

字をよく見てごらん (春日市) 横山 辰生

「もう一生しゃべらへんよ」の一生が短くて

よいきようだい喧嘩 (京都市) 袴田 朱夏

死は二回一度は寿命二回目は君の心に忘れら

れる日 (長崎市) 栗田 正義

日蝕を怖々薄目に見るやうに妻の遺しし日記

を繙く (富士宮市) 高村富士郎

猫の顔描かれし腕にコーヒーを注ぎて我の一

日始まる (柳井市) 沖原 光彦

☆肺に影見つかりし夫は帰り来て数独の続き静

かにしてゐる (岡山市) 山本 昌子

「その研究どう役立つの」聞く子らに大人は

何を教えてきたか (柏市) 石戸 俊和

何を教えてきたか

【評】森さん、永遠の未完成と言われてきたが、同じ思いを抱いた人も多い筈。榎本さん、固有名詞の力を時にはうまく使いたいもの。十首目、役に立つ研究もすべて基礎研究から。私と大隅良典の共著『基礎研究者』でもこの問題を論じている。